

## リヨンのサン＝キュロット運動の展開

——一七九二年八月から九三年五月二十九日の反乱に至るまでの  
「ジャリエ派」と地区クラブ（リヨン革命史研究、その三）——（二）

小井高志

### 目次

はしがき

一、社会的政策と理念

二、革命軍の設立運動

三、「ジャリエ派」の市政掌握と敗北に至るまでの政治過程

（以上、第四五巻第二号収録）

四、五月二十九日の反乱についての社会的考察  
結び

四、五月二十九日の反乱についての社会的考察

五月二十九日の反乱は、これまでの記述によってもわかるように、政治的にみると「ジャリエ派」と地区クラブに

対するロラン派と穏和地区の闘争であったということは明らかである。しかしこの対立は社会的にみると一体どのような性格をもつものであったのであるうか、それを解明することが本章の課題である。

そこで筆者はまず最初に、五月二十九日に「ジャリエ派」を支持した地区と、それ以外の反乱に参加したか、態度不明確だった地区の貧富の差異を一七八八年の *vingtième de maison* の各カルティエの平均担税額に基づいて比較してみた。五月二十九日の反乱の際に「ジャリエ派」の市自治体を支持した地区は、三十二地区中、九地区（ただしグランド・コート地区は第一デヴィジョンのみ）にしかすぎなかったが（その他、トマサン街、ジュイヴリー、サン＝ヴァンサン第一デヴィジョン、ポール・ド・サン＝ポール、フェデラシオン第二デヴィジョンの五地区が地区部

リヨンの28(32)地区

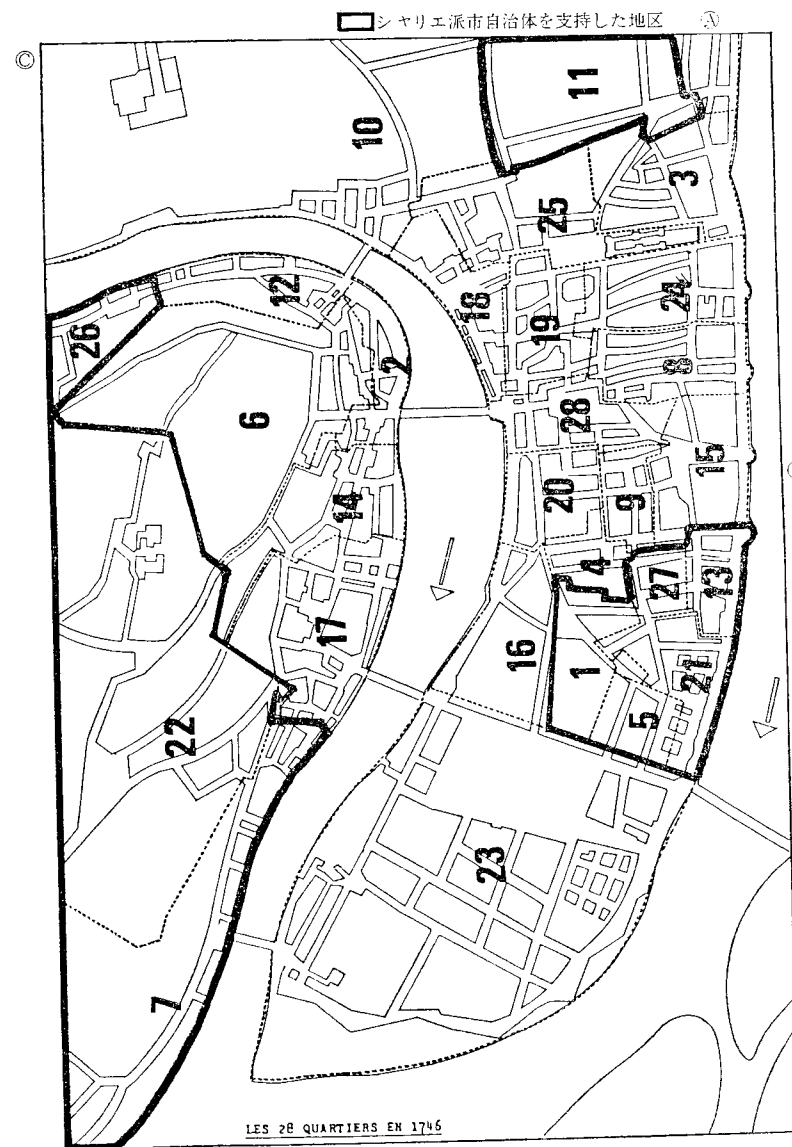
- 1 — Place Confort
- 2 — Le Change
- 3 — Le Griffon 1<sup>re</sup> division  
2<sup>e</sup> division
- 4 — Rue Thomassin
- 5 — Rue Bellecordière (La Réunion)
- 6 — La Juiverie
- 7 — Saint-Georges
- 8 — Rue Neuve
- 9 — La Croisette
- 10 — Saint-Vincent 1<sup>re</sup> division  
2<sup>e</sup> division
- 11 — La Grande-Côte 1<sup>re</sup> division  
2<sup>e</sup> division
- 12 — Le Port de Saint-Paul
- 13 — Le Bon-Rencontre
- 14 — La Place Neuve (La Fraternité, L'Union)
- 15 — Rue Buisson
- 16 — Le Port du Temple
- 17 — Porte-Froc
- 18 — La Pescherie (Brutus)
- 19 — Place Saint-Pierre (Guillaume-Tell)
- 20 — La Rue Tupin
- 21 — La Rue de l'Hôpital (L'Hôtel-Dieu)
- 22 — Le Gourguillon
- 23 — La Place de Louis-le-Grand La Fédération 1<sup>re</sup> division  
La Fédération 2<sup>e</sup> division
- 24 — Le Plâtre (L'Egalité)
- 25 — Les Terreaux (La Liberté)
- 26 — Pierre-Scize
- 27 — Le Plat-d'argent
- 28 — Saint-Nizier (Rousseau)

Faubourgs

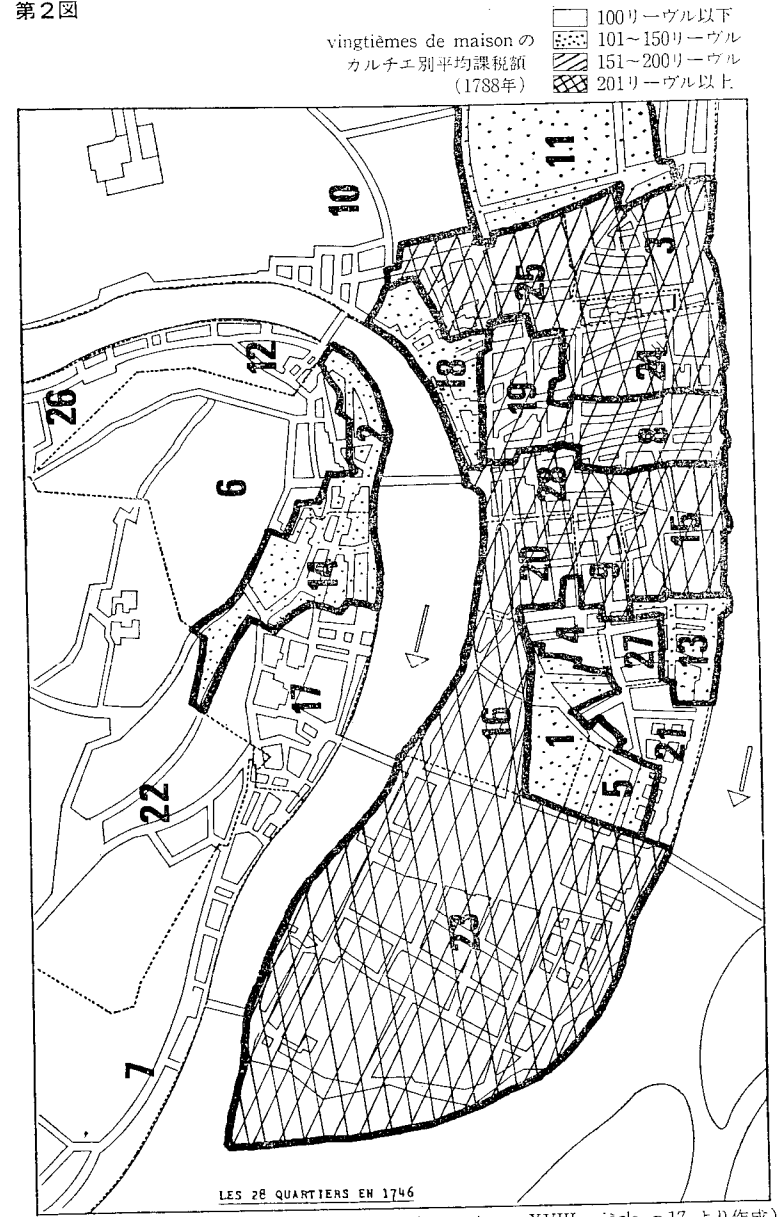
- Ⓐ La Croix-Rousse
- Ⓑ La Guillotière
- Ⓒ Vaise

第1図

1793年5月29日の反乱と地区



第2図



(Garden, Lyon et les Lyonnais au XVIIIe siècle, p.17 より作成)

隊の一部を市庁舎の防衛に出動させた<sup>(1)</sup>、第一図はそれを示したものであり、第二図はリヨンの市内の vingtième de maison の平均担税額をカルチエ別に四段階に分けて示したものである。これらの図を重ね合わせて、「シャリエ派」の地区と反乱側の地区の平均担税額を比較してみると、両者の貧富の差異が明らかになる。それによると、「シャリエ派」の地区は、平均担税額が最下位のクラス（一〇〇リーヴル以下）に五地区、下から二番目のクラス（二〇一〜一五〇リーヴル）に四地区があり、それらの地区は市内では相対的に貧困な地域の地区で、市のはずれと「半島」presqu'île とよばれた市の中心部でもオテル・デュ・救貧院のある貧困なカルチエにあるということがわかった。それに対して、反乱側に加担したか態度不明確な地区（地区軍の一部を市庁舎の防衛に向けた五地区も、たとえばポール・ド・サン・ピエール地区のように、反乱前夜、「シャリエ派」の市自治体に反対する態度をとっていた地区もある）で、反乱側に入れてある）についてみると、大体それらは市の中心部に多く、最高のクラス（二〇一リーヴル以上）に九地区、上から二番目のクラス（一五一一〜二〇〇リーヴル）に二地区、下から二番目のクラスに三地区、最下位のクラスに四地区が位置している。したがって以上のことから五月二十九日の反乱は、市内の中心部の富裕な地区

の反乱というおよそその性格を持っていたと言えることができるであろう。

しかしながら、この分析だけでは反乱の社会的性格も、リヨンの革命闘争の社会的対立も充分に具体的には明らかにすることはできない。そこで筆者は角度をかえて、できるだけ多くの地区の「シャリエ派」の支持者と地区の穏和分子との社会的性格の比較を試みようとした。その結果、ローヌ県立古文書館のセリールとリヨン市立古文書館のセリールIの地区文書のなかから、(一)一般住民、(二)地区クラブの会員、(三)五月二十九日の反乱参加者、(四)九三年六月〜九月の反乱中の地区活動分子（すなわち地区の穏和分子）、(五)反乱中に「シャリエ派」の支持者として反乱地区当局により武装解除された市民（いわゆる「ジャコバン容疑者」 suspects jacobins）、以上の五つの集団の名簿を作成し、それらの各人を一七九二年及び九三年の動産課税台帳（Registres de la Contribution mobilière リヨン市立古文書館所蔵）に照合してみた。それに基づいて各人の職業とLoyer 額（富裕の程度を相対的に示す）を統計化して表わしたのが表一表二十である<sup>(2)</sup>。

まず最初の第一表から第三表までは、地区クラブの会員の統計である。第一表は、市の北部、クロワールスの丘の麓の半島（presqu'île）の付け根にあるサン・ヴァンサン地

第1表 サンニヴァンサン地区クラブ (1793年) の社会  
(史料 リヨン市立古文書館 I(2)4, Sections de Lyon 及び Registre

Classe de Loyers	Inconnus	Citoyens passifs	20	30	40	50	60	70
<i>Textiles</i>								
Fabricants	42	7	4	20	19	20	14	9
Fabricant de bas	1						1	
Veloutiers	1			1				
Teinturiers	2						1(63)	
Dessinateur	1							1(78)
Chapelier								
Md. de soye	1							
<i>Négociant</i>	2							
<i>Alimentation</i>								
Md. de vin							1	
<i>Fer</i>								
Forgeur								
Armaurier	1							
<i>Affaneurs</i>	2		1				1	
<i>Artisans divers</i>								
Cordonnier			1	1				
Charpentier	1							
Jardiniers	1							1(72)
Perruquier					1			
<i>Entrepreneur de bâtiment</i>								
<i>Profession libérale</i>								
Ecrivain	1							
<i>Campagne</i>								
Vanneur de blès	1					1		
Peseur de foin								
<i>Autres</i>								
Md. de pension	1							
Fusthier en bateau(sic)							1	
不明 (Inconnus)	4							
TOTAL	61	7	6	22	20	22	18	11

職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
de la contribution mobilière, Section Nord Ouest 1792)

80	90	100	110	120	130	Nbr. de citoyens	Pour-cent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
10	3	1		1	1(300)	151	77.8	5,500	53.9
						1	0.5		
						3	1.5	90	45
						6	3.1	413	103.3
						2	1.0	78	78
				1		1	0.5	120	120
						1	0.5		
					2(200) 500)	4	2.1	700	350
						2	1.0	160	80
				1		1	0.5	100	100
						1	0.5		
						3	1.5	80	40
						2	1.0	50	25
						1	0.5		
						2	1.0	72	72
						1	0.5	40	40
						1	0.5	150	150
						1	0.5		
						1	0.5		
						1	0.5	50	50
						1	0.5		
						1	0.5	102	102
						1	0.5		
						6	3.1	450	225
10	3	6		2	6	194	100%	8,155	64.7

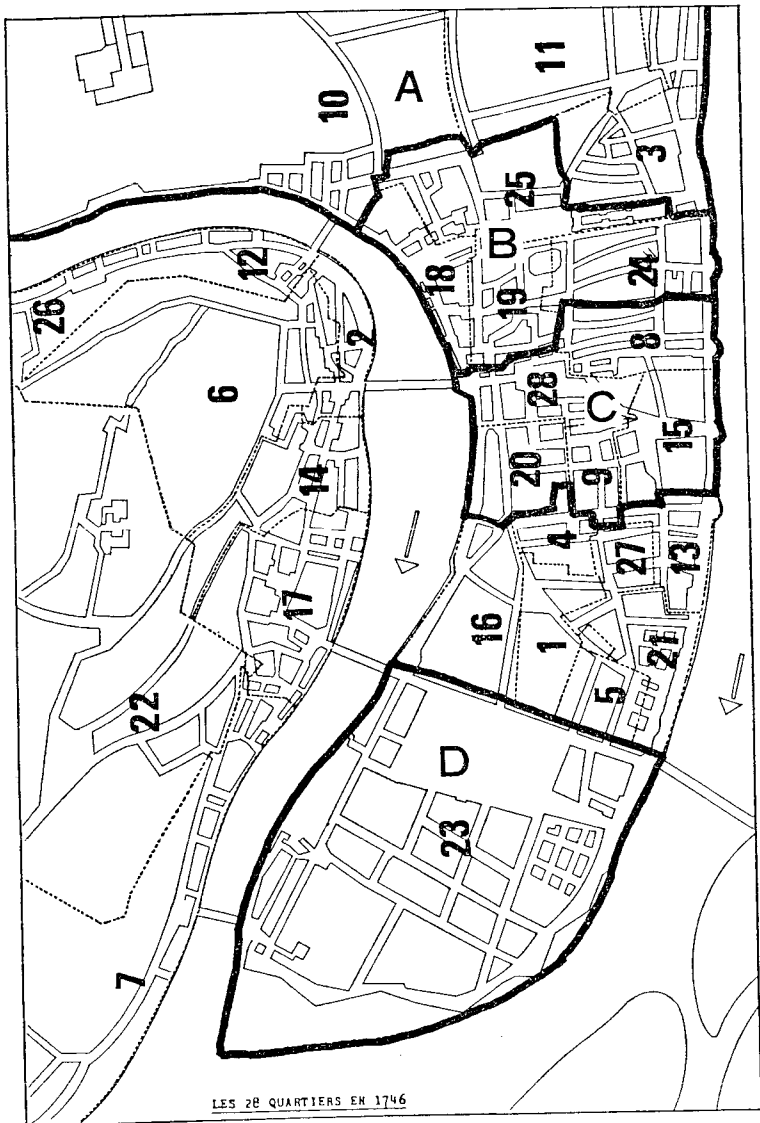
リヨンのサンニキュロット運動の展開 (小井)

区のクラブの一七九二年―九三年の会員に関するものである。既に筆者は、拙稿『革命初期のリヨンの民衆クラブと「シャリエ派」(『土地制度史学』 第八八号)のなかで同クラブの一七九一年の会員の社会構成を検討したが、同クラブは九一年から九三年にかけてその会員数を約二倍にふやしたにもかかわらず、会員の社会構成はほとんど変化していない。職業構成と Loyer 額からみた会員の社会構成の特徴は、前記拙稿のなかで指摘してきたことがそのまま妥当する。すなわち、九二―九三年についても、絹織物工業の fabricant (これはたびたび記してきたように、独立自営の小営業者ではなく、商人製造業者 Marchand-Fabrique-quant に手問賃で雇用されているかつての親方労働者 maître-ouvrier か、またその下で働いていたかつての職人である)が圧倒的多数を占め(七七・八%)、ネゴシアンや企業家はごく僅かしかみられない。そしてリヨンの富裕な階層の重要部分の一角を占める財産生活者(rentier)に至っては皆無に近い状態である。また会員の平均 Loyer も、九一年と同様に依然として低額で、六四・七リーヴルにしか満たない。これは、同地区が所属するノール・ウエスト管区にノール・エスト及びフェデラシオンの両管区(第三図参照)をあわせた一般住民の担税者の平均 Loyer が約一五〇リーヴルであるから、その約三分の一から二分の一

にすぎない。

次の第二表は、ペルリコルディエール街地区クラブの会員に関するものである。このクラブについては、関係文書のなかに会員リストがなかったため、筆者は議事録から会員と考えられる人名を抽出して、会員リストを作成し、それを動産課税台帳に当てはめてみることにした。その結果、四名の会員の氏名を台帳上に発見することができた。彼らの社会構成をみると、fabricant と fabricant de bas は一九九(平均 Loyer 五七・五リーヴル)しか存在せず、それにかわって商人や財産生活者などの富裕な階層が一四%(平均 Loyer 二九八・三リーヴル)、及びその他の様々な職種の手工業者・小商店主が約四〇%弱を占めている。そして Loyer 平均は一〇四・三リーヴルとなった。つまりこのクラブは、表一のサンリヴァンサン地区クラブに比較すると、市の中心部に近いカルティエにあり、fabricant も多く居住していなかったという理由もあって、クラブの会員には絹織物工業以外の小商店主や手工業者が多く、富裕な階層も存在しているという結果になったと考えられる。(しかし、それでもなお、後で検討される反乱中の同地区の活動分子に較べると、クラブの方が fabricant の割合は高く、富裕階層の割合も、平均 Loyer 額も低い。)第三表のクロワゼット地区クラブは市の中心部にあり、九三年二

リヨンの管区 (cantons)  
A. ノール・エスト及びノール・ウエスト  
B. オテル・コマン  
C. アール・オー・ブレ  
D. フェデラシオン



第3図

第2表 ベルニコルディエール街地区クラブの社会職業構成と動  
(史料 ローマ県立古文書館 34L1, リヨン市立古文書館 Registre

Classe de Loyers (en livres)	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110
Professions										
<i>Textiles</i>										
Fabricant et Ouvrier en soie	1		1(46)				1	1(95)		
Fabricant de bas	1	1		1						
Gazier		1								
<i>Habillement</i>										
Chapelier		1								
Tailleur										
Cordier		1	1							
<i>Artisans divers</i>										
Md. en détail		1		1						
Tourneur						1				
Doreur sur livres				1						
Teneur de livres								1(95)		
Cabaretier							1			
Colporteur						1				
Revendeur					1					
Chaudronnier										
Charpentier		1						1(96)		
Maçon										
Forgeur				1						
Cordonnier									1	
Platrier										
<i>Journalier</i>			2		2	2				
<i>Commis</i>										
<i>Sans Profession</i>			1							
TOTAL	2	6	6	3	3	4	2	3	1	0

産税の家賃査定額 (Loyer) (1791年8月31日—1793年5月29日)  
de la contribution mobilière de la section l'Hôtel-Dieu 1793)

120	130	140	150	160	170	180	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
1							5	11.9	361	72.2
							3	7.1	100	33.3
							1	2.4	30	30
							1	2.4	30	30
	1						1	2.4	130	130
							2	4.8	70	35
1			1				2	4.8	270	135
							2	4.8	80	40
							1	2.4	70	70
							1	2.4	50	50
							1	2.4	95	95
							1	2.4	80	80
							1	2.4	70	70
							1	2.4	60	60
							1	2.4	30	30
							1	2.4	96	96
							1	2.4	40	40
							1	2.4	100	100
				1			1	2.4	150	150
1							7	16.7	460	65.7
						1(220)	1	2.4	220	220
						5(a)	6	14.3	1,790	298.3
3	1	0	2	0	6	6	42	100%	4,382 livres	104.3 livres

(a) 1 "Sans Profession".....200 livres

1 .....300

3 .....400

リヨンのサン・ニコロット運動の展開 (小井)

第3表 クロワゼット地区クラブ（1793年）の  
（史料 ローマ県立古文書館 34L2, リヨンを市立古文書館 Registre

Classe de Loyers(livres)	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130
<b>Professions</b>										
<i>Textiles</i>										
Fabricant		2	2				1		1	
Fabricant de bas		1								
Plieur de soie		1								
Commerçant veloutier					1					
Passementier										
<i>Habillement</i>							1			
Toilier										
Tapissier										
Md. de bas	1	1		1		1			1	
Tailleur	1									
Cordier										
<i>Négociant</i>										
Négociant										
Fabricant de gazes										
<i>Alimentation</i>										
Epicier		1			1				1(124)	
Confisiseur										
Fournier			1							
<i>Artisans divers</i>										
Artisan		2	2		1					1
Perruquier			1							
Joaillier en détail			1							
Horloger										
Menuisier				1						
Savetier										
Serrurier							1			
Commerçant peintre							1			
Fondeur								1		
Potier										
Md. Ferratier		1								
Ferblantier		1								
Cordonnier					1					
Balancier							2			
Md. de meubles							2			
<i>Marchand en détail</i>				1	1					
<i>Manoeuvre</i>						1				
<i>Commis</i>			1		1					
<i>Sans Profession</i>			(64)	(72)						
<b>TOTAL</b>	2	10	9	4	5	4	7	0	4	1

(a) 1 Négociant...250 livres (b) 2 Md. en détail...200 livres  
1 ...300 1 ...400  
1 ...800

社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
de la contribution mobilière, Halle aux blés et Hôtel-Commune, 1793)

140	150	160	170	180	190	200	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyen moyen de citoyens actifs
							5	5.7	230	46.0
							1	1.1	100	100.0
							1	1.1	50	50.0
							1	1.1	50	50.0
							1	1.1	80	80.0
						1	2	2.3	300	150.0
						2	2	2.3	400	200.0
		1					1	1.1	160	160.0
							5	5.7	370	74.0
							1	1.1	48	48.0
						2(a)	3	3.4	430	143.3
						1	1	1.1	500	500.0
1							4	4.5	394	98.5
						1	1	1.1	300	300.0
							1	1.1	60	60.0
							7	8.0	600	85.7
		1		1			2	2.3	210	105.0
							1	1.1	60	60.0
		1					1	1.1	150	150.0
1							1	1.1	140	140.0
							1	1.1	72	72.0
							1	1.1	96	96.0
							1	1.1	96	96.0
							1	1.1	160	160.0
							1	1.1	100	100.0
							1	1.1	50	50.0
							1	1.1	180	180.0
							1	1.1	50	50.0
							1	1.1	80	80.0
							2	2.3	200	100.0
		1				4(b)	11	12.5	2,290	208.2
		1					1	1.1	150	150.0
							1	1.1	80	80.0
1		1				16(c)	22	25.0	7,161	325.5
3	4	3	1	3	1	27	88	100%	15,697 livres	178.4 livres

(c) 5 "Sans Profession"...200/240/250/300/360 livres  
4 ...400  
6 ...450/500/515/540/600/800

第4表 反乱以前のポール・ド・サン＝ポール地区の第一次集会出席者の社会  
(史料 ローム県立古文書館 31L20-23, リヨン市立古文書館)

Classe de Professions	Loyers(livres) Citoyens passifs	10	20	30	40	50	60	70	80	90
<i>Textiles</i>										
Fabricant	6	1		9	8	2		2		
Dévideuse	1									
Teinturier							1			
<i>Habillement</i>										
Tailleur							1			1
<i>Alimentation</i>										
Md. de vin								1		
Amidonnier										
Epicier										
Boulangier										
<i>Artisans divers</i>										
Artisan				1	1		1			
Md. de Pelletier										
Cordonnier						1				
Galocher						1				
Charpentier										
Maçon										
Tourneur	1									
Md. de fer	1									
<i>Journalier</i>	1									
<i>Greffier</i>										
<i>Sans Profession</i>						1				
TOTAL	10	1	0	10	9	5	3	3	0	1

(a) 1 Fabricant...360 livres

(b) 1 "Sans Profession"...500

職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1792年9月22日～1793年5月19日)  
Registre de la contribution mobilière, Montagne, 1792)

100	110	120	130	140	150	160	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
			1			1(a)	30	50.0	1,330	55.4
1				1			1	1.7	0	0
							3	5.0	300	100
							2	3.3	150	75
				1			2	3.3	216	108
1							1	1.7	100	100
	1						1	1.7	110	110
1							1	1.7	100	100
							4	6.7	230	57.8
1						1	1	1.7	200	200
							1	1.7	50	50
							1	1.7	50	50
1							1	1.7	100	100
1							1	1.7	100	100
		1					2	3.3	120	120
							1	1.7	0	0
							1	1.7	0	0
					1		1	1.7	150	150
					2	1(b)	5	8.3	990	198
6	1	1	1	3	3	3	60	100%	4,296 livres	85.9 livres

リヨンのサン＝キュロット運動の展開(小井)



第5表 反乱中のポール・ド・サン＝ポール地区の第一次集会出席者の社会  
(史料 表4と同じ)

史苑(第四七卷第二号)

Classe de Professions	Loyers(livres)	Citoyens passifs	10	20	30	40	50	60	70	80	90
<i>Textiles</i>											
Fabricant		11			9	8	6	3	4		1
Teinturier											
<i>Habillement</i>										2	
Chapelier											
Tailleur						1	1				1
<i>Alimentation</i>											
Farinier								1		1	
Boulangier											
Epicier								1			1
Md. de vin								1	1		
Brasseur de bière											
Boucher											
Cabaretier										1	
<i>Artisans divers</i>											
Artisan			1		1		5	1		1	
Meunier											1
Charpentier											
Vitrier											
Maçon											
Tourneur		1									
Perruquier											
Cordonier									1		
Md. en détail											
Md. de fer		1									
Md. de meuble											
Md. de pelletier											
<i>Journalier, Ouvrier</i>		2									
<i>Sans Profession</i>							1				
<i>Négociant</i>											
<i>Profession libérale</i>							1			1	
<i>Prêtre</i>							1				
TOTAL		15	1	0	10	9	14	8	6	6	4

(a) 2 Fabricants...360 livres 1 Epicier ...500 (f) 1 "Sans Profession" ...200  
 (b) 1 Teinturier...280 (d) 1 Artisan ...600r 1 ...400  
 (c) 2 Epiciers ...200 (e) 1 Md. de pelletier...200 1 ...450

職業構成と動産税の家賃査定 (Loyer) (1793年5月31日～10月9日)

100	110	120	130	140	150	160	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de Citoyens actifs
			1			2(a)	45	35.2	2,190	64.4
2		1	1	1	1	1(b)	6	4.8	890	171.7
		1					3	2.3	280	93.3
							3	2.3	200	66.7
							2	1.6	140	70
2							2	1.6	200	100
					1	3(c)	6	4.8	1,200	200
1							2	1.6	130	65
1							1	0.8	100	100
							1	0.8	100	100
							1	0.8	80	80
5		1		1		1(d)	17	13.3	1,794	105.5
							1	0.8	90	90
1							1	0.8	100	100
1							1	0.8	100	100
1							1	0.8	100	100
				1			2	1.6	120	120
							1	0.8	100	100
1							1	0.8	70	70
							1	0.8	150	150
							1	0.8	0	0
							1	0.8	100	100
1							1	0.8	200	200
							2	1.6	0	0
							15	11.7	5,560	370.6
			1	1	4	8(f)	1	0.8	120	120
			1(124)				6	4.8	878	146.3
							1	2(e)		
							1	1(h)		
							3	2.3	490	163.3
16	0	6	2	3	9	19	128	100%	14,482 livres	128.1 livres

1 ...490 1 ...900 (h) 1 prêtre ...300  
 1 ...500 (g) 1 profession libérale ...224  
 2 ...800 1 ...250

リヨンのサン＝キュロット運動の展開 (小井)

月六日の中央クラブの蜂起以来、反乱の日まで一貫して「シャリエ派」に最も強く抵抗した地区クラブである。この地区クラブは、そのようなわけで反乱側に加担したせい、氏名・職業が記載された全会員のリスト（一二九名を含む）がロース県立古文書に現在まで残されている。それらの会員のうち、筆者は、八八名の能動市民を動産課税台帳上に発見し、統計化することができた。その結果、*bricant* と *fabricant de bas* は六・八%という少数でしかなく（平均 *Loyer* 五五リーヴル）、それに対して富裕な職業は二九・五%（これには二五%「平均三二五・五リーヴル」の財産生活者「無職」と四・五%「平均 *Loyer* 二二・五リーヴル」の富裕な商人が含まれる）、その他の小営業者は約四五%（このなかで特に多数を占めるのは一二・五%「平均 *Loyer* 二〇・八・二リーヴル」の小売商人である）にも及び、全体の平均 *Loyer* も一七八・四リーヴルと、これまで検討した地区クラブのなかでは最も高いということが明らかになった。（ただし、この地区クラブについても、後に検討する同じクロワゼット地区の反乱中の活動分子と較べると、クラブの方が *fabricant* の割合は高く、富裕な階層は少ない。）

このように同じ地区クラブと言っても会員の構成は同一ではなく、地域により異なり、サン＝ピエールサン地区クラ

ブが絹織物工業の *fabricant* を主体とし、平均 *Loyer* 額も低いのに対して、「シャリエ派」に抵抗したクロワゼット地区クラブには小商店主と財産生活者が多く、クラブのなかでは比較的富裕であり、ベル＝コルディエール街地区クラブの場合はその中間に当ることがわかった。しかし既に記したように、地区クラブの社会構成が全体としてはどのような特徴をもつかは、他の反乱地区の活動分子や反乱参加者と比較してみるとより鮮明になる。

\* \* \*

表四から表十四までは、地区の第一次集會に出席した活動分子と地区砲兵の統計で、反乱以前の時期に関する第四表を除いて、いずれも反乱の時期の地区を対象としたものである。その検討を、まず最初にソヌ川右岸の地区から開始することしよう。第四表と第五表はいずれもポール・ド・サン＝ピエール地区の第一次集會出席者の統計であるが、前者は反乱以前、後者は反乱中の時期を対象としている。筆者はこの統計を作成するにあたり、同地区の文書（A. D. R. 31 L 20-23）のなかから第一次集會出席者の氏名（時には住所も同時に記載されている）を抽出し、同時にそれらの人々の氏名を反乱中（九三年八月）に作成された同地区の住民リストでも確認しながら（このリストには三、〇七四名の一般住民が記載されているが、その一般

住民の社会構成は拙稿『革命期のリヨン住民の社会構成』で検討したので、参照していただければ幸いである）、動産課税台帳と照合して、社会構成をだそうと試みた。それによって、筆者は、反乱以前の第一次集會（「シャリエ派」を支持していた）の出席者のうち、五〇名の能動市民と一〇名の受動市民を動産課税台帳のなかに見出すことができた。その結果、反乱以前のポール・ド・サン＝ピエール地区の第一次集會の出席者の五〇%が *fabricant* によって占められていることが判明した（受動市民を除いた二四名の能動市民の *fabricant* の平均 *Loyer* は五五・四リーヴル）。

それに対して富裕階層は少数にすぎず、財産生活者は八・三%（平均 *Loyer* 一九〇リーヴル）を占めるが、ネゴシアンは一人もいない。そして残りの四〇%は様々な職種の小営業者によって占められている。結局、五〇名の能動市民の平均 *Loyer* は八五・九リーヴルとなった。次に表五の同地区の反乱中の第一次集會の出席者一二八名の統計についてみると、*fabricants* は三五・二%（能動市民の平均 *Loyer* 六四・四リーヴル）を占めるが、やはり富裕階層は一二・五%にしか達しない。他の部分は、これも反乱以前と同様に様々な職種の小営業者が約四四%を占める。そして能動市民一一三名の平均 *Loyer* は一二八・一リーヴルとなった。以上のように反乱の以前と反乱中では、全体と

して同じ傾向にはあるが、差異がはっきりとあらわれている部分もある。しかしその点については、同地区の一般住民や五月二十九日の反乱参加者などの統計を検討する際に改めて指摘することにした。

次の第六表から第十四表までは、いずれも反乱中の地区活動分子の統計である。第六表はジュイヴリー地区で、地区文書のなかから活動分子を抽出し、それを動産課税台帳に照合して作成したものである。その結果、五〇名の能動市民、七名の受動市民、その他六名（地区文書に氏名・職業は記載されているが、その氏名を動産課税台帳上に発見できなかった活動分子で、受動市民であると考えられる）の合計六三名の活動分子を統計化することができた。それに基づいて、前と同様に彼らの社会構成をみると、同地区は、絹織物工業の *fabricant* が比較的多く居住するソヌ右岸のカルティエにあるにもかかわらず、同地区の反乱中の活動分子のなかには *fabricant* は一七・五%（能動市民の平均 *Loyer* は四七・一リーヴル）しかみられない。それに対して富裕階層は二五・四%を占め（このなかでは二・三・八%の財産生活者—平均 *Loyer* 一九九・三リーヴルが最も多い）、さらに残りの約三五%は様々な職種の小営業者によって構成されている。そして能動市民の平均 *Loyer* は一四〇・八リーヴルにのぼっている。

第6表 反乱中のジュイヴリー街地区の活動分子の社会職業構  
(史料 ローマ県立古文書館 31 L16-18, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (livres)	職業が記載さ れている市民	Citoyens passifs	20	30	40	50	60	70	80
<i>Professions</i>									
<i>Textiles</i>									
Fabricant	1	3	1	2	1		2		
Teinturier									
Brodeur									
<i>Habillement</i>									
Capelier (sic)				1					1
Tailleur									
<i>Alimentation</i>									
Epicier						1			
Boucherie									
<i>Artisans divers</i>									
Artisan			1		1				1
Tourneur						1			
Charpentier									
Menuisier	1								1
Entrepreneur									
<i>Journalier, Affaneur</i>		4							
<i>Sans Profession</i>									
Négociant	1			1			1		1
Profession libérale	2					1			
Prêtre									
Militaire	1								
TOTAL	6	7	2	4	2	3	3	0	4

- (a) 1 Epicier...200 livres  
1 ...300  
(b) 6 "Sans Profession"...160 livres  
1 ...200  
2 ...240  
1 ...250  
1 ...500

成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年6月8日～9月10日)  
Registre de la contribution mobilière, la Montagne 1792)

90	100	110	120	130	140	150	160	Nbr. de citoyens	Pour- cent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
1								11	17.5	330	47.1
	1							1	1.6	100	100
							1(200)	1	1.6	200	200
							1(300)	1	1.6	300	300
1	1							4	6.3	300	75
		1					2(a)	4	6.3	650	162.5
1	1							2	3.1	190	95
1	1						1(600)	5	7.9	850	170
								1	1.6	80	80
								1	1.6	50	50
								1	1.6	—	—
								1	1.6	80	80
								4	6.3	0	0
1	1						13(b)	15	23.8	2,990	199.3
								1	1.6	—	—
		1					1(500)	7	11.1	780	111.4
1								2	3.1	140	70
								1	1.6	—	—
6	6	1	0	0	0	0	19	63	100%	7,040 livres	140,8 livres

リヨンのサンルキュロット運動の展開(小井)

第7表 反乱中のグールギューイオン地区の活動分子の社会職業  
(史料 ロース県立古文書館 31 L 30, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (en livres)	Citoyens Passifs	20	30	40	50	60	70	80	90	100
<i>Textiles</i>										
Fabricant	1	2								
Compagnon	1									
<i>Artisans divers</i>										
Md. en détail				1						
Cordonnier		1								
Cabaretier			1					1		
Perruquier		1								
Pelletier		1								
<i>Journalier</i>						1				
<i>Sans Profession</i>					1					
<i>Profession libérale</i>				1		2				1
<i>Prêtre (ex-minime)</i>									1	
TOTAL	2	5	1	2	1	3	0	1	1	1

(a) 1 "Sans Profession"...400 livres

1 ...300

1 ...260

1 ...250

1 ...200

(b) 1 Profession libérale...250 livres

1 ...160

構成と動産税の家賃査定 (Loyer) (1793年5月31日～6月23日)  
Registre de la contribution mobilière, l'Ancienne Ville 1793)

110	120	130	140	150	160	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
						3	11.5	40	20
						1	3.8	0	0
						1	3.8	40	40
						1	3.8	20	20
						2	7.7	120	60
						1	3.8	20	20
						1	3.8	20	20
						1	3.8	60	60
			1		6(a)	8	30.8	1,800	225
					2(b)	6	23.1	670	111.7
						1	3.8	90	90
0	0	0	1	0	8	26	100%	2,880 livres	120 livres

リヨンのサン＝キュロット運動の展開 (小井)

第8表 反乱中のオテル・デュ地区の活動分子の社会職業  
(史料 コーヌ県立古文書館 31L41, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers(en livres)	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
Professions										
<i>Textiles</i>										
Ouvrier en soie	1		2	1	1	1	2			
Fabricant										
Fabricant de bas		1		2 (40 et 46)						
<i>Habillement</i>										
Chapelier										
<i>Alimentation</i>										
Boucher									3	1
Boulangier										1
Epicier						1		1		
Md. de vin					1					
Cabaretier										
<i>Artisans divers</i>										
Artisan					1				1(a)	1
Md. détaillant				1	1					
Cordonnier										
Eperonnier									1(96)	
Ferratier										
Forgeur					1					
Menuisier										
Tourneur										
Ferblantier										
Marbrier										
Calandreur										
Contisseur (?)			1				1	1		
<i>Journalier</i>										
<i>Sans Profession</i>							1			
<i>Artiste</i>										
TOTAL	1	1	3	5	5	4	3	1	5	3

(a) 1 Md. détaillant...95 livres

(b) 1 "Sans Profession"—180

1 —200

1 —350

構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年6月~10月)  
Registre de la contribution mobilière, l'Hôtel-Dieu 1793)

110	120	130	140	150	160	170	180	Nbr. de citoyens	Pour- cent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
				1				8	15.7	360	45
								1	2.0	150	150
								3	5.9	106	35.3
	1						1	2	3.9	300	150
	1	1	4					10	19.6	1,180	118
								1	2.0	100	100
								1	2.0	80	80
								1	2.0	60	60
								1	2.0	50	50
								1	2.0	50	50
								2	3.9	195	97.5
								2	3.9	90	45
								1	2.0	112	112
								1	2.0	96	96
								1	2.0	50	50
	1							1	2.0	120	120
				1				1	2.0	150	150
					1			1	2.0	150	150
							1(260)	1	2.0	260	260
		1						1	2.0	120	120
							1(200)	1	2.0	200	200
								4	7.8	200	50
							3(b)	4	7.8	790	197.5
	1							1	2.0	120	120
1	5	1	4	3	0	0	6	51	100%	5,089 livres	99.8 livres

リヨンのサン・ピエール・ロート運動の展開 (小井)

第9表 反乱中のブラ・ダルジャン地区の活動分子の社会職業  
(史料 ローマ県立古文書館 31 L 49, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (en livres)	Citoyens passifs	20	30	40	50	60	70	80	90	100
<b>Professions</b>										
<i>Textiles</i>										
Ouvrier en soie		1			1	1			1	
Fabricant de bas	1					1	1			1
<i>Habillement</i>										
Toilier									1	3
Chapelier										
Guimpier (sic)										
Cordier							1			
Fripier										
<i>Alimentation</i>										
Epicier						1		1	1	
Charcutier									(96)	
Md. de farine en détail										1
Md. de tabac						1				
Aubergiste										1
<i>Artisans divers</i>									1	1
Artisan										
Sculpteur							1			
Fondeur							1			
Md. détaillant										
Potier			1							
<i>Journalier</i>										
<i>Sans Profession</i>										
<i>Commis</i>										
<b>TOTAL</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>7</b>

(a) 1 "Sans Profession"...160 livres

- 1 ...200
- 2 ...250
- 1 ...280
- 1 ...300
- 1 ...360
- 1 ...400
- 1 ...450

構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年6月1日～10月7日)  
Registre de la contribution mobilière, l'Hôtel-Dieu 1793)

110	120	130	140	150	160	Nbr, de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
						4	9.3	220	55
						4	9.3	230	76.7
						4	9.3	390	97.5
1					1(180)	2	4.7	290	145
					1(250)	1	2.3	250	250
					1(200)	1	2.3	200	200
						1	2.3	70	70
			1(144)		1(180)	4	9.3	464	116
						1	2.3	96	96
						1	2.3	100	100
						1	2.3	60	60
						1	2.3	100	100
						2	4.7	190	95
						1	2.3	70	70
						1	2.3	70	70
	1					1	2.3	120	120
					1(170)	1	2.3	170	170
						1	2.3	30	30
				1	9(a)	10	23.3	2,800	280
		1				1	2.3	130	130
1	1	1	3	1	14	43	100%	6,050 livres	144 livres

リヨンのサン・キュロット運動の展開 (小井)

次の第七表のグルギューイオン地区の反乱中の活動分子の統計も、表六及びこの次の表八と同様の方法によって作成されたものであるが、筆者は二六名の地区活動分子の氏名を動産課税台帳上に確認することができた（その内訳は、能動市民二四名、受動市民二名）。それによると、この地区の反乱中の活動分子のなかに占める *fabricant*（もしくは *compagnon*）の割合は更に低下し、一五・三％しかみられず（能動市民のみ平均 *Loyer* は二〇リーヴル）、かわって三〇・八％の財産生活者（平均 *Loyer* 二二五リーヴル）と二三・一％の自由職業（平均 *Loyer* 一一七リーヴル）が多数を制している。他の残りの部分（約二三％）は様々な職種の小営業者によって占められている。そして二四名の能動市民全員の平均 *Loyer* は一二〇リーヴルとなった。結局、反乱中のグルギューイオン地区も、ジュイヴリー地区と同様にソーヌ右岸の織布工が多く居住するカルティエであったと考えられているにもかかわらず、反乱中の地区集会には富裕な階層が多く参加していたということが出来る。

以上の三地区はソーヌ右岸のカルティエにある地区であったが、今度は *presqu'île* とよばれた半島にある市の中心部の地区について検討することにした。第八表は、オテル＝デュ地区の反乱中の活動分子の統計であるが、この

地区は、富裕なカルティエの多い市の中心部のなかでは例外的に貧困な地区であり（一七八八年の *vingtième de maison* の平均担税額をみると、この地区は最低のクラスにある）、政治的には一貫して「シャリエ派」を支持した地区であった。既に記したように、この地区は市長選挙でシャリエやベルトランを支持し、反乱の翌日、六月一日まで第一次集会の常時開設を宣言せず、反乱の際には「シャリエ派」の市庁を支持した。それ故にか、この地区の活動分子（五一名）には、反乱中の時期でさえも *fabricant*, *fabricant de bas*, *ouvrier en soie* が多い（二三・五％で、平均 *Loyer* は五一・三リーヴル）。それに対して富裕な階層は七・八％の財産生活者（平均 *Loyer* 一九七・五リーヴル）しかみられない。しかし、この地区の特徴は、むしろ絹織物工業以外的小営業者が最も多く居住していたことにあり、反乱中の活動分子にも、食肉屋 *boucher* が一九・六％も存在し、その他の小営業者とあわせると五九％にも達する。しかし彼らもまたそれほど富裕ではなかったため、全体の平均 *Loyer* は反乱地区の活動分子としては最も低くなっている（九九・八リーヴル）。

第九表の、オテル＝デュ地区に境を接するブラ＝ダルジャン地区も五月二十九日の蜂起で市自治体側に協力した地区である。そのためか、反乱中でさえも同地区の活動分

子の平均 *Loyer* は、オテル＝デュ地区と同様に、市の中心部の他の地区と較べると、低額である（一四四リーヴル）。その第九表は、前の諸表と同じく地区文書に記載されている反乱中の活動分子の氏名と住所に基づいて、動産課税台帳から作成されたものである。筆者は、地区文書から六八名の活動分子を抽出し、結局そのうちの四二名の能動市民と一名の受動市民を動産課税台帳上に発見することができた。その結果、合計四三名の活動分子中、一八・六％が *fabricant・ouvrier en soie*（平均 *Loyer* 五六・三リーヴル）であるが、財産生活者がそれをうわ廻る二三・三％（平均 *Loyer* 二八〇リーヴル）存在することが判明した。そして残りの四四％は様々な職種の小営業者によって占められている。

次の第十表から第十三表までで検討する地区は市の中心部のきわめて富裕なカルティエにある。筆者は地区文書の中からベル＝コルディエール街地区については活動分子の氏名、クロワゼット地区とデュパン街地区については彼らの氏名と住所、そしてルソー（サン＝ニジエ）地区については地区砲兵の全構成員の氏名と住所のリストを得ることができた。第十表から第十三表までは、それらのデータを動産課税台帳と照合して作成したものである。それらのうちから、まず初めに第十表のベル＝コルディエール街地区

の反乱中の活動分子についてみると、統計化されている人数が少ないという制約を考慮しなければならないが、その社会構成の特徴は *ouvrier en soie* が少数である（七・一％、平均 *Loyer* 八〇リーヴル）のに対して、財産生活者がきわめて多く存在すること（四二％、平均 *Loyer* 三七一・七リーヴル）であろう。そしてこれを、同地区のクラブの社会構成（第二表）と比較してみるならば、更に興味深い結果を得ることができる。まず *fabricant* の割合は、クラブが一九％（平均 *Loyer* 五七・五リーヴル）であるのに対して、反乱地区の活動分子の方は七・五％（平均 *Loyer* 八〇リーヴル）で、クラブの方が割合が高く、しかも同じ *fabricants* でも平均 *Loyer* が低い。反対に富裕階層の割合はクラブが一四％（平均 *Loyer* 二九八・三リーヴル）、反乱地区は四二・九％（三七一・七リーヴル）で、反乱地区の方が割合も平均 *Loyer* も大幅に上昇している。そしてその他の衣服・繊維関係以外的小営業者の割合について比較してみると、クラブは三六％（平均 *Loyer* 七九・四リーヴル）、反乱地区は三五・七％（平均 *Loyer* 一三六リーヴル）で、平均 *Loyer* はクラブより反乱地区の方が高いが、全体に占める人的割合は両者ともほぼ三分の一である。最後にクラブと反乱地区の全体の平均 *Loyer* を比較すると、前者が一〇四・三リーヴルであるのに対して、後者は

第10表 反乱中のベルニコルディエール街地区の活動分子の社会  
(史料 ロース県立古文書館 31 L 45, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (en livres)	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180
Professions											
Textile											
Ouvrier en soie	1										
Artisans divers											
Md. en détail					1			1			
Batteur (sic)											
Epicier					1						
Porteur		1									
Sans Profession								1			
Commis											
TOTAL	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	0

(a) 1 "Sans Profession"...280 livres

1 ...350  
1 ...450  
1 ...800

記のベルニコルディエール街地区の場合とほとんど同様のことが、つまり反乱中に多数の富裕分子が政治活動に介入してきたことが明らかである。

第十二表のドロワ・ド・ロム(デュパン街)地区も反乱以前から「シャリエ派」に抵抗し、第一次集会の常設化運動をすすめた地区であった。同地区については四十一名の反乱中の活動分子が統計化された結果、ここでも fabricant・ouvrier en soie はほとんど見られなかった(四・九%、平均 Loyer 一八〇リール)。それに対して、財産生活者と自由職業は二四・五%(平均 Loyer は五二四リールと四二六・七リール)、富裕なネゴシアンは一・二・二%(平均 Loyer 一〇八六リール)、同じく富裕な衣服繊維関係の商人が七・三%(平均 Loyer 六八六・七リール)存在し、さらに衣服繊維以外の商人や商店主が五一・二%も占めていた。そして全体の平均 Loyer もクロワゼット地区に続く六八八リールを記録した。

第十三表は、五月二十九日の反乱前に第一次集会の常時開設を宣言したルソー(サンニニエ)地区の反乱中の砲兵の統計である(この砲兵のリストには五〇名が記載されているが、そのうちいずれも能動市民の二一名の氏名しか動産課税台帳に記載されていなかった)。ここでも fabricant はあまり多く見られず、ネゴシアンと衣服繊維関係の商

職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年6月4日～7月29日)  
Registre de la contribution mobilière, l'Hôtel-Dieu 1793)

190	200	210	220	230	240	250	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
							1	7.1	80	80
							2	14.3	270	135
	1						1	7.1	200	200
							1	7.1	120	120
							1	7.1	90	90
	1					4(a)	6	42.9	2,230	371.7
			1		1		2	14.3	460	230
0	2	0	1	0	1	4	14	100%	3,450 livres	246.4 livres

リヨンのサンニニエ運動の展開(小井)

二四六・四リールにも達し、明確な差異が認められる。これは明らかに、fabricant にかわって反乱中の政治活動に富裕階層がより多く参加するようになったことを示している。

次の第十一表は、前に既に記したように同一地区のクラブでさえ「シャリエ派」に激しく抵抗したクロワゼット地区である。この地区からは、反乱中の活動分子を四一名検出することができた(いずれも能動市民)。その結果、彼らの半数近くの四一・五%は衣服繊維関係の商人と製造業者であることが判明した(これに含まれる三名の Fabricant は、その平均 Loyer が七二〇リールにも達するから、単なる親方労働者とは考えられない。独立のファブリカンか、あるいは商人製造業者 Marchand-Fabricant とみる方が妥当である)。またその他の部分についても、衣服繊維以外の様々な富裕な商人が四一・五%を占めている。結局、かれらの平均 Loyer 額は七八九・五リールというすべての表のうちで最高額を記録した(同地区の所属するアール・オー・ブレ管区の一般住民の担税者の平均 Loyer は一五〇・一リールであるから、クロワゼット地区の反乱中の活動分子の平均 Loyer がいかに高いかわかる)。そして、このクロワゼット地区に関しても、地区クラブと反乱中の地区活動分子の統計を比較してみると、前



第11表 反乱中のクロワゼット地区の活動分子の社会職業構成  
(史料 ローヌ県立古文書館 31L2-3, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (en livres)	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100
<i>Professions</i>											
<i>Textiles</i>											
Fabricant			1(a)	1							
Moulineur		1 (240)									
Md. de bas en gros				1							
Md. de draperie				1							
Md. de gaze											
Négociant					1		1(b)	1			
Brodeur		1									
Tapissier											
Tailleur	1 (150)				1 (520)						
<i>Alimentation</i>											
Epicier	1 (150)						1				
Farinière						1					
Confiseur	1 (140)									1 (1,030)	
<i>Artisans divers</i>											
Mercier		2(e)	1(f)	1(g)		1	1				
Md. de fer					1						
Md. de meubles				1							
Md. de peaux		1 (250)									
Parfumeur										1	
Menuisier						1 (630)					
Fondeur			1								
Perruquier				1							
Hôtelier											
<i>Profession libérale</i> (Notaire etc.)								1			
<i>Sans Profession</i>					1(h)	1					
TOTAL	3	5	3	6	4	4	3	2	0	2	0

(a) 1 Fabricant ... 360 livres

(b) 1 Négociant... 750

(c) 1 Négociant... 1,800

1 ... 2,300

(e) 1 Mercier ... 220

1 ... 240

と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年5月31日～9月3日)  
Registre de la contribution mobilière, Halle aux blés 1793)

1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	Nbr. de citoyens	Pour- cent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
		1					3	7.3	2,160	720
							1	2.4	240	240
							1	2.4	400	400
		1					2	4.9	1,850	925
1		(1,450)					1	2.4	1,200	1,200
						2(c)	5	12.2	6,150	1,230
							1	2.4	200	200
		1					1	2.4	1,470	1,470
		(1,470)					2	4.9	670	335
							2	4.9	850	425
							1	2.4	600	600
							2	4.9	1,170	585
							6	14.6	2,560	426.7
							1	2.4	500	500
							1	2.4	400	400
							1	2.4	250	250
							1	2.4	1,000	1,000
							1	2.4	630	630
							1	2.4	300	300
							1	2.4	400	400
						1	1	2.4	3,000	3,000
					1	(3,000)	2	4.9	2,400	1,200
						1	3	7.3	2,950	983.3
						(1,840)				
1	0	3	0	1	0	4	41	100%	32,370 livres	789.5 livres

(f) 1 Mercier ... 380 livres

(g) 1 Mercier ... 420

(h) 1 "Sans Profession" ... 510

リヨンのサン・キュロット運動の展開 (小井)

第12表 反乱中のドロワ・ド・ロム（デュパン街）地区の活動分子の  
 （史料 Gonon, Procès-verbaux du comité de surveillance de la  
 リヨ市立古文書館 Registre de la contribution mobilière,

Classe de Loyers (en livre)	100	200	300	400	500	600	700	800
<i>Professions</i>								
<i>Textiles</i>								
Fabricant de bas	1(a)	1						
Négociant			1 (360)			1 (650)		1
Md. de gaze							1 (720)	
Drapier								
Guimpier (sic)				1				
<i>Artisans divers</i>								
Artisan			1 (370)					
Mercier	1 (120)				2(b)	3(c)		1
Libraire								
Cordonnier	1 (90)				1	1		
Fondeur		1 (240)						
Vitrier		1 (270)						
Corroyeur							1	
<i>Sans Profession</i>	1 (170)		2	1	1	2		
<i>Commis et Teneur</i>		2 (200/280)						1
TOTAL	4	5	4	2	4	7	2	3

(a) 1 Fabricant... 110 livres

(b) 1 Mercier ... 500

1 ... 560

(c) 1 Mercier ... 600

2 ... 650

(d) 1 Mercier ... 1,000

1 ... 1,060

社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年8月11日～9月28日)  
 section des Droits de l'Homme pendant le siège, Lyon, 1847.  
 Halle aux blés 1793)

900	1000	1100	1200	1300	1400	Nbr. de citoyen	Pour- cent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
						2	4.9	360	180
		1 (1,120)			1 (2,500)	5	12.2	5,430	1,086
						1	2.4	720	720
1 (940)						1	2.4	940	940
						1	2.4	400	400
						1	2.4	370	370
	2(d)	1	2		1	13	31.7	10,840	833.8
					1 (1,800)	1	2.4	1,800	1,800
						3	7.3	1,190	396.7
						1	2.4	240	240
						1	2.4	270	270
						1	2.4	700	700
						7	17.1	3,670	524.3
						3	7.3	1,280	426.7
1	2	2	2	0	3	41	100%	28,210 livres	688 livres

リヨンのサン・キュロット運動の展開（小井）

第13表 反乱中のルソー (サン＝ニジエ) 地区の砲兵の社会  
(史料 ロース県立古文書館 31 L 6, リヨン市立古文書館)

Classe de Loyers (en livres)	100	200	300	400	500	600	700	800	900
<i>Professions</i>									
<i>Textiles</i>									
Fabricant	2 (120 et 130)								
Négociant		1(a)	1						
Tailleur	1(b)	1							
Drapier	1		1						
Drapier en gros									
<i>Artisans divers</i>									
Md. en détail							1(710)		
Menuisier				1					
Epicier							1		
Boutonnier	1(120)								
Coffretier				1					
Doreur	1(130)								
Ferblantier					1				
Notaire					1			1	
TOTAL	6	2	2	2	2	0	2	1	0

(a) 1 Négociant...260 livres  
(b) 1 Tailleur ...180

・九才である。それに対して、先に示したサン＝ヴァンサン地区クラブの一七九二―九三年の会員の平均年令は四三・八才であるから、反乱協力者も地区クラブの会員も年令的にはほとんど同じであったということになる。

\* \* \*

次に検討するのは五月二十九日の蜂起参加者の社会構成に関する問題であるが、それを可能にさせる唯一の史料はポール・サン＝ポール地区の文書に含まれている手書きの *Bulletin par le commissaire de la Convention relatif à la journée du 29 au 30 mai (A.D.R., 31 L 23)* である。それには蜂起参加者の氏名が記載されている。この地区は、第一次集会の議事録や九二―九三年初めの市長選挙の投票結果によると、九三年五月下旬まで「ジャリエ派」を支持していたが、五月二十七日に第一次集会の常時開設を宣言し、二十八日には前に記したように、「ジャリエ派」の市自治体を厳しく非難する

職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer) (1793年 8月 5日)  
Registre de la contribution mobilière, Halle aux blés 1793)

1000	1100	1200	1300	1400	Nbr. de citoyen	pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
					2	9.5	250	125
		1	1		4	19.0	3,060	765
					2	9.5	380	190
					2	9.5	400	200
				1	1	4.8	1,400	1,400
1					2	9.5	1,710	855
					1	4.8	400	400
					1	4.8	700	700
					1	4.8	120	120
					1	4.8	400	400
					1	4.8	130	130
					1	4.8	500	500
					2	9.5	1,300	750
1	0	1	1	1	21	100%	10,800 livres	513.3 livres

リヨンのサン＝キュロット運動の展開 (小井)

人が四二・八% (平均 Loyer は七六七リーヴルと四三六リーヴル)。その他の富裕な商人と商店主が三八% (平均 Loyer 四四三・二リーヴル) を占めている。また全体の平均 Loyer もクロワゼット、ドロワ・ド・ロムと同じく、この地区の所属するアール・オー・ブレ管区の一一般担税者の平均 Loyer (一五〇・一リーヴル) をはるかに上廻る五一三・三リーヴルに達している。(第十四表は、反乱鎮圧後の市当局によって作成されたボン・ランコントル地区の反乱協力者のリスト——氏名・年令ときには職業が記載されている——から作成したものであるが、統計化された活動分子の数がきわめて少数であるから、これは参考としての価値を持つてにすぎないであろう。ただし反乱協力者の年令に関するデータは他にないので、別稿で明らかにされた地区クラブの会員の平均年令と比較するため、年令の判明する一三名の反乱協力者の平均年令を記しておく、それは四三

第14表 反乱中のアミ・デ・ロワ(ボン・ランコントル)地区の「アン  
(史料 ロース県立古文書館 31L7, リヨン市立古文書館

Classe de Loyers (en livres)	95	140	150	160	200	230	500	950
Professions								
Textiles								
Chineur (Fabricant)			1					
Tailleur	1							
Artisans divers								
Boulangier					1			
Corroyeur				1				
Sans Profession		1				1	1	1
TOTAL	1	1	1	1	1	1	1	1

チ・ジャコバン」活動分子の社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
Registre de la contribution mobilière, l'Hôtel-Dieu 1793)

Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total citoyens actifs	Loyer moyen de citoyens actifs
1	12.5	150	150
1	12.5	95	95
1	12.5	200	200
1	12.5	160	160
4	50.0	1,820	455
8	100%	2,425 livres	303.1 livres

リヨンのサン・ピエール運動の展開(小井)

声明を行った。<sup>(6)</sup>そして五月二十九日の反乱では、一部の地区部隊は市庁の防衛のために出動したが、地区としては反乱側につき、反乱翌日(五月三十日)には臨時市政体を構成することになった地区委員会(Comité des sections)に参加している。第十五表は、そのうちの蜂起に参加した市民のリスト(一〇〇名)から、動産課税台帳に記載されている八三名を抽出して統計化したものである。この統計によって判明する蜂起参加者の社会構成の特徴は、後に同地区の他の集団との比較の際にも述べるので、ここでその概観のみを簡単に記しておく、その特徴は、これまで検討した反乱中の地区活動分子とはかなり異なり、同地区はソ！ヌ右岸の比較的貧困で fabricant も多く居住するカルテイエであったことから、蜂起参加者にも fabricant が多く見られる。すなわち八三名のうち、fabricant は四八・二%(平均 Loyer 五五リーヴル)を占める。それに対して、ネゴシアンと財産生活者は皆無であり、残りの部分は様々な職種の小営業者と手工業者によって占められている。そして全体の平均 Loyer は八四・四リーヴルで、市の中央部の反乱中の地区活動分子よりはかなり低い。ただし、この統計の結果は、既に記したように、同一地区の他の集団と比較するとき、より鮮明な特徴が示されるであらう。

\* \* \*

九三年八月初旬、反乱中のリヨン市当局は、五月二十九日の蜂起の際に「シャリエ派」の市自治体を支持したり、クラブの会員であった容疑者のリストを作成し、彼らの武装を解除した。筆者はそれらの容疑者を「ジャコバン容疑者」と称しているが、それらのリストが四つの地区の文書のなかから発見された。それに基づいて作成されたのが第十六表から第十九までの四つの表である。筆者は、後でこれらの統計の結果を他の集団と比較して、「シャリエ派容疑者」の社会構成の特徴を明らかにするが、そのまえに四つの統計の結果を順次検討しておくことにしたい。第十六表のポール・ド・サン・ピエール地区の三四名の「ジャコバン容疑者」は二二名の能動市民と二名の受動市民とからなり、fabricant が全体の過半数、すなわち六一・八%を制している(能動市民の平均 Loyer 三四・二リーヴル)、富裕な階層は一名の財産生活者(二・九%、Loyer 一七〇リーヴル)しかない。他はほとんど絹織物工業関係以外の富裕とは言いがたい手工業者(二六・五%、能動市民の平均 Loyer 五三・三リーヴル)である。そして二二名の能動市民の平均 Loyer は四八・五リーヴルにしか満たない。次にポール・ド・サン・ピエール地区と同じくソ！ヌ右岸にある第十七表のプラス・ヌーヴ(ユニオン)地区の三一名の「ジャコバン容疑者」のうち動産課税台帳により職業と

第15表 ポール・ド・サン＝ポール地区の1793年5月29日の  
(史料 ロース県立古文書館 31 L 23, リヨン市立古文書館)

Professions	Classe de Loyers (en livres)	Citoyens passifs	10	20	30	40	50	60	70	80	90
<i>Textiles</i>											
Fabricants	12				10	10	3		2		1
Teinturiers											
<i>Habillement</i>											
Chapelier										1	
Tailleur						1					1
<i>Alimentation</i>											
Farinier										1	
Boulangier											
Epicier							1				1
Md. de vin									1	1	
Boucher											1
Amidonnier											
Aubergiste											
<i>Artisans divers</i>											
Artisans			1	2	2	4		3			
Md. de Pelletier											
Charpentier											
Vitrier											
Md. de fer	1										
Tourneur	1										
Perruquier											
<i>Profession libérale</i>							1			1	
Abbé											
TOTAL		14	1	2	12	14	5	4	3	4	4

- (a) 1 Fabricant ...360 livres  
 (b) 2 Epiciers ...200  
 (c) 1 Artisan ...144  
 (d) 1 Artisan ...600  
 (e) 1 Profession libérale ...300

反乱加担者の社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
 Registre de la contribution mobilière, la Montagne 1792)

100	110	120	130	140	150	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
1					1(a)	40	48.2	1,540	55
1					1	2	2.4	250	125
						1	1.2	80	80
						2	2.4	140	70
						1	1.2	80	80
2						2	2.4	200	100
					2(b)	4	4.8	550	137.5
						2	2.4	150	75
						1	1.2	90	90
1						1	1.2	100	100
		1				1	1.2	120	120
2				1(c)	1(d)	16	18.9	1,394	87.1
					1	1	1.2	200	200
1						1	1.2	100	100
1						1	1.2	100	100
						1	1.2	0	0
						1	1.2	0	0
1						1	1.2	100	100
					1(e)	3	3.6	430	143.3
					1	1	1.2	200	200
10	0	1	0	1	8	83	100%	5,824 livres	84.4 livres

リヨンのサン＝キュロット運動の展開 (小井)

第16表 ポール・ド・サン＝ポール地区の「ジャコバン容疑者」  
（史料 ロース県立古文書館 31L23, リヨン市立古文書館）

Classe de Loyers (en livres)	Citoyens Passifs	10	20	30	40
<i>Professions</i>					
<i>Textiles</i>					
Fabricant	9	1		6	3
Teinturier					
<i>Ouvrier, Journalier</i>	2				
<i>Artisans divers</i>					
Artisan				3	
Faisieur de portefeuille(sic.)					1
Cordonnier	1			1	
Epicier					
Md. de vin					
<i>Sans Profession</i>					
TOTAL	12	1	0	10	4

に記載されていない者が一名が含まれている）を統計化することができた。その結果、三五名のうち、fabricant・fabricant de bas は七四％（能動市民の平均 Loyer 四四・ハリーヴル）を占め、富裕階層は一名の財産生活者しか存在していないことが判明した。その他の部分は、ほとんどが Loyer の低い手工業者により構成されている。そして能動市民全部の平均 Loyer も、やはり他の地区の「ジャコバン容疑者」と同様に、非常に低く、四九・六リーヴルにしか満たなかった。これは、これまでのすべての統計のうち最低の平均 Loyer 額である。ところで、筆者は既に本章でこのサン＝ヴァンサン地区の一七九一年と九二・九三のクラブの会員の社会構成について検討したので、同一地区のクラブの会員と「ジャコバン容疑者」を比較することができる。まず第一に能動市民の平均 Loyer について見ると、四九・六リーヴルの「ジャコバン容疑者」に対して、九一年のクラブは六一・七リーヴル、九二・九三年のクラブの方は六四・七リーヴルとなっている。次に職業構成について見ると、fabricant の割合は、「ジャコバン容疑者」が七三・九％であるのに対して、九一年のクラブが七九・六％、九二・九三年が七七

(Suspects Jacobins) の社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
Registre de la contribution mobilière, la Montagne 1793)

50	60	70	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
2			21	61.8	410	342
	1		1	2.9	60	60
			2	5.9	0	0
	1		4	11.8	150	37.5
			1	2.9	40	40
			2	5.9	30	30
	1		1	2.9	60	60
		1(146)	1	2.9	146	146
		1(170)	1	2.9	170	170
2	3	2	34	100%	1,066 livres	58.5 livres

Loyer 額が判明した二六名についてみると、ポール・ド・サン＝ポール地区の「ジャコバン容疑者」よりも絹織物工業の労働者の割合は低下しているが、依然として相対的には多く、ouvrier en soie の割合は二三・一％（能動市民の平均 Loyer は四〇リーヴル）を占める。それに対して、財産生活者は一五・四％存在し（平均 Loyer 一一〇リーヴル）、その他は様々な職種の手工業者や労働者であるが、彼らも富裕ではないために、全体の平均 Loyer はポール・ド・サン＝ポール地区を更に下廻るという結果になっている（平均 Loyer は三四・二リーヴルで、これはソーヌ右岸のたとえばポール・ド・サン＝ポール地区の一般住民の担税者の fabricant の平均 Loyer とほぼ等しい額である<sup>(8)</sup>）。

今度はソーヌ川とロース川に挟まれた半島の地区についてみると、第十九表のヌーヴ街地区の「ジャコバン容疑者」については四名しか発見されず、データ不足で、一般化することはできないから、これを除外すると、第十八表のサン＝ヴァンサン地区についてしか論じることができない。第十八表にあるように、三五名の「ジャコバン容疑者」（このうちには受動市民四名、職業は判明するが動産課税台帳

第17表 ユニオン (プラス・ヌーヴ) 地区の「ジャコ  
(史料 ロース県立古文書館 31 L 33, リヨン市立古文書館

Classe de Loyers (en livres)	Inconnus	20	30	40	50	60	70	80
<i>Professions</i>								
<i>Textiles</i>								
Fabricant	1	1(24)						
Ouvrier en soie		1	1(a)	1				1
compagnon Chapelier				1				
Tailleur	1	2	2					
<i>Ouvrier, Affaneur</i>		(20 et 24)	(36 et 36)				1(72)	
<i>Artisans divers</i>								
Artisan					1			
Revendeur					1			
Cordonnier			1					
Faiseur d'aiguille		1(24)						
Coiffeur			1					
Sculpteur								
Peintre		1(24)						
Cabaretier	1							
<i>Sans Profession</i>				1				
<i>Ecrivain</i>			1					
TOTAL	3	6	6	3	2	0	1	1

(a) 1 Ouvrier en soie...36 livres

以上のように、筆者は、地区クラブの会員、反乱以前と反乱中の地区活動分子、五月二十九日の蜂起参加者、そして「ジャコバン容疑者」の、四種の集団の社会構成を順次検討してきたが、次にそれらの相互の比較を試みることにしたい。そのために第二十表はこれまで検討したすべての表を総合簡略化して表わしたものである。それを参照しながら、第一に能動市民の平均 Loyer を比較してみると、反乱中の地区活動分子が最も高く（とりわけ市の中心部の地

た第十四表のボン・ランコントル地区の十三名の反乱協力者の平均年令は四三・九才であった。したがって、この範囲でみるかぎり、地区クラブの会員も、反乱協力者も、そしてその逆の「ジャコバン容疑者」も年令的には大差なく、ほぼ一般住民の平均年令に等しいと考えられるが、それらのなかでは、急進的なサン・キュロットであった「ジャコバン容疑者」の平均年令が多少低いということが言える。）

\* \* \*

「バン容疑者」の社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
Registre de la contribution mobilière, la Métropole 1793)

90	100	110	120	130	140	150	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen de citoyens actifs
							2	23.1	200	40
							4			
							1	3.8	40	40
							3	11.5	72	36
							3	11.5	116	38.7
							1	3.8	50	50
							1	3.8	50	50
							1	3.8	30	30
							1	3.8	24	24
						1	1	3.8	150	150
							1	3.8	30	30
							1	3.8	24	24
							1	3.8		
			1	1		1	4	15.4	440	110
							1	3.8	30	30
0	0	0	1	1	0	2	26	100%	1,244 livres	54.1 livres

・八%であり、富裕階層の方の割合は、「ジャコバン容疑者」には自由職業が一名（二・八%）であるのに対して、九一年と九二—九三年のクラブにはネゴシアンがそれぞれ二名（一・九%）と四名（二・一%）いるが、割合はほぼ同一である。したがって、「ジャコバン容疑者」の方がクラブより平均 Loyer は低く、fabricant の割合は逆にクラブの方が高いという多少の相異はあるが、全体的には両者の社会構成はほぼ同一と考えることができよう。（ところで、このサン・ヴァンサン地区の「ジャコバン容疑者」のリストには年令も記載されている。年令が判明するのは、第十八表の三五名のうち二〇名であるが、その平均年令は三八・三才になる。この結果を参考のために、これまでに明らかにされた他のデータと比較してみると、同じサン・ヴァンサン地区のクラブの会員の九一年の平均年令は四一才、九三年は四三・八才であり——拙稿『革命初期のリヨンの民衆クラブと「ジャリエ派」』五〇頁——、また先に指摘し

第18表 サン＝ヴァンサン地区の「ジャコバン」  
(史料 リヨン市立古文書館 I(2)3, Registre de la

Classe de Loyers (en livres)	Inconnus	Citoyens passifs	20	30	40	50	60
Professions							
<i>Textiles</i>							
Fabricant	1	4		9	2	2	4
Fabricant de bas				1			
Veloutier							1
Gazier				1			
Dessinateur							
<i>Journalier</i>							
<i>Artisans divers</i>							
Cordonnier			1	1			
Perruquier				1			
Aubergiste							
<i>Sans Profession</i>							
TOTAL	1	4	1	13	2	2	5

第19表 ヌーヴ街地区の「ジャコバン容疑者」の社会職業構成と  
(史料 ローズ県立古文書館 31L26, リヨン市立古文書館 Registre de la contribution

Classe de Loyers (en livres)	100	250	1500	Nbr. de citoyens	Pourcent
Professions					
Ouvrier	1			1	25
Revendeur	1			1	25
Hôtelier			1	1	25
Tonnelier		1		1	25
TOTAL	2	1	1	4	100%
Les 3 citoyens sauf un hôtelier				3	75%

容疑者」の社会職業構成と動産税の家賃査定額 (Loyer)  
contribution mobilière de la section, Nord Ouest 1792)

70	80	90	100	Nbr. de citoyens	Pourcent	Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
2	1			25	71.1	910	45.5
1(78)				1	2.8	30	30
				1	2.8	60	60
				1	2.8	30	30
				1	2.8	78	78
			1	1	2.8	100	100
				2	5.7	50	25
				1	2.8	30	30
			1	1	2.8	100	100
			1	1	2.8	100	100
3	1	0	3	35	100%	1,488 livres	49.6 livres

リヨンのサン＝キュロット運動の展開（小井）

動産税の家賃査定額 (Loyer)  
mobilière, l'Halle aux blés 1793)

Montant total de Loyers	Loyer moyen des citoyens actifs
100	100
100	100
1,500	1,500
250	250
1,950 livres	587.5 livres
450	150



第20表 ③能動市民の平均 Loyer ②Fabricant の割合④財産生活者とネゴシアンとの割合

地区名	地区クラブ	93年5月29日 蜂起参加者	反乱中の 地区分子	ジャリエ 派容疑者
Le Port Saint-Paul (一般住民) ①106 livres ②37.5% ③7%		①84.4 livres ②48.2% ③3.6%	①128.1 l. ②32.2% ③12.5% (反乱以前) ①85.9 l. ②50% ③8.3%	①34.2 l. ②61.8% ③2.9%
Saint-Vincent	(1791) (1792-93) ①61.7 l. ②58.2 l. ③82.3% ④77.8% ⑤1.9% ⑥2.1%			①49.5 l. ②73.9% ③2.8%
La Croisette	①178.4 l. ②6.8% ③29.5%		①789.5 l. ②0% ③48.8%	
Rue Belle-Cordière	①105.0 l. ②19% ③14.3%		①246.4 l. ②7.1% ③42.9%	
Rue Neuve				①150 l.
Union (Place Neuve)				①54.1 l. ②23.1% ③15.4%
La Juiverie			①140.8 l. ②16.9% ③24.6%	
Le Gourguillon			①120 l. ②11.5% ③30.8%	
L'Hôtel-Dieu			①99.8 l. ②23.6% ③7.8%	
Le Plat-d'argent			①144 l. ②18.6% ③23.3%	
Rue Tupin			①688 l. ②4.9% ③36.6%	
Rousseau (St.-Nizier)			①513.3 l. ②9.5% ③19%	
Le Bon-Rencontre			①303.1 l. ②12.5% ③50%	

区)、次いで地区クラブの会員、「ジャコバン容疑者」の順に下がっていく。たとえばクロワゼット地区クラブの平均 Loyer は地区クラブのうちでは最も高いが、同一地区の反乱中の活動分子に較べると、約四分の一にしかすぎない。ついで職業構成についてみると、絹織物工業の fabricant もしくは ouvrier en soie の割合は、反乱中の地区よりも地区クラブと「ジャコバン容疑者」の方が高い。

地区クラブの会員・「ジャコバン容疑者」と反乱中の地区活動分子は、全体的には以上のような差異をもつが、これらの差異をより明確にするために、ポール・ド・サン・ポール地区の一般住民、反乱以前と反乱中の地区活動分子（第四表と第五表）、五月二十九日の蜂起参加者（第十五表）及び「ジャコバン容疑者」（第十六表）を直接比較することが適当である。第一に受動市民の割合についてみると、一般住民が最も高く四七・八%であるが、これを除外すると、「ジャコバン容疑者」が三五%、次いで反乱以前の地区の一六%、そして五月二十九日の蜂起参加者の一五%、最後に反乱中の地区の一%という順に下がっていく。次に能動市民の平均 Loyer についてみると、今度は逆に、ほぼ同じ順序で、「ジャコバン容疑者」三四・二リーヴル、五月二十九日の蜂起参加者八四・四リーヴル、反乱以前の地区八五・九リーヴル、反乱中の地区一二八・一リーヴル

と上昇していく。そして一般住民の能動市民の平均 Loyer は一〇六リーヴルであり、ちょうど反乱以前と反乱中の地区の間に位置するというのは興味深い結果である。また反乱以前の地区と五月二十九日の蜂起参加者の Loyer が接近している、それを反乱中の地区活動分子がかなり上回っていることにも注目しておかなければならないであろう。

これは、「ジャリエ派」を支持していた反乱以前の地区活動分子と五月二十九日の蜂起参加者が（蜂起参加者の方が fabricant よりも一般的には富裕な様々な職業の小営業者が多いという差異はあるが）ほぼ同一の社会層から構成されていたことを示しているとともに（事実、第四図に示されているように、両者とも約三分の一は共通の人物により構成されている）、五月二十九日の蜂起以後、新たに富裕市民が地区集會に参加しはじめたことを示しているのではないだろうか。また fabricant の割合も、それを証明するかのように、「ジャコバン容疑者」が六一・八%で最も高く、次いで反乱以前の地区の五〇%と五月二十九日の蜂起参加者の四八・二%がほぼ同一の水準で続き、反乱中の地区は三二・二%とかなり少くなっている。なお一般住民中の fabricant の割合は三七・五%で、反乱以前の地区・五月二十九日の蜂起参加者と反乱中の地区の中間に位置していることを付け加えておきたい。このことも、五月二十九

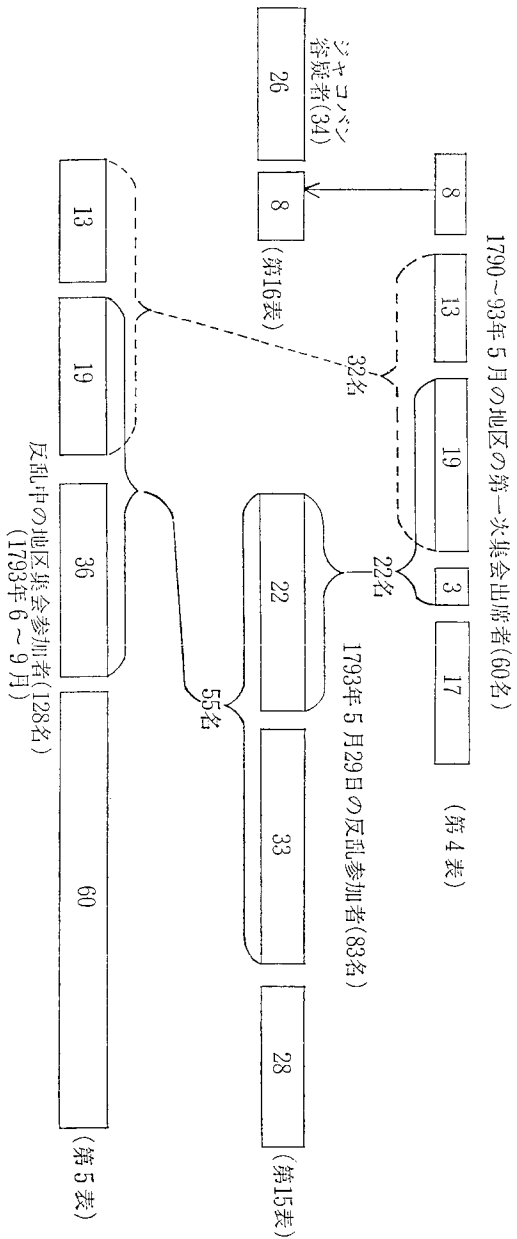
日の蜂起に参加した fabricant はかなり多かったが、蜂起後の地区集会では fabricant が減り、かわって富裕階層の市民が参加するようになったことを示している。

結局、以上のような結果、九二年から九三年にかけてリヨンで展開された「シャリエ派」・地区クラブとロラン派・地区穏和市民の闘争は、社会的には絹織物工業の貧困なファブリカン・労働者と、比較的富裕な財産生活者・商人・商人製造業者との間の闘争という性格を持っていたと言えることができる。言い換えれば、この二十の表は地区の穏和派とはいかなる社会的分子を主体とし、他方「シャリエ派」を最後まで支持したのはどのような社会層であったのかということを示している。

ところが、右に要約したような結論は、リヨンの革命闘争の社会的性格を示しているが、それはあくまで結果として確認された事実であるにすぎない。それだけでは、民衆内部の諸集団もしくは個人がいかなる動機で反乱に参加したのかという主体的な契機を何ら説明したことにはならない。なぜならば、五月二十九日の反乱の際に、すべての貧困地区が必ずしも「シャリエ派」の市自治体を支持したわけではなかったし、どの程度の経済的水準ならば「シャリエ派」に味方したのかという数量的な目安も立てられないからである。くわえて、反乱側に加担したファブリカ

ンもかなり存在した。元来、五月二十九日の蜂起それ自体が、もし一部の民衆をも反乱に引摺り込まなければ、地区の富裕な穏和分子だけでは成功しなかったはずである。たとえば、ポール・ド・サン＝ポール地区はファブリカンが住民の三分の一以上を占め、革命前夜から商人製造業者と対立して市当局に Tarif の制定を要求する激しい運動を指導したファブリカンのリーダー、ドニ・モネ (Denis Monnet) の居住する地区であり、反乱前まで「シャリエ派」を支持していたにもかかわらず、地区としては結局五月二十九日の蜂起を支持する側にまわった。それならば、何故に民衆の一部は反乱に同調し、他の一部は「シャリエ派」を支持したのであろうか。拙稿『リヨンの革命史と民衆運動』でも記したように、民衆内部の分裂の跡はポール・ドサン＝ポール地区においてさえ、第四図のようにあらわれている。この図は、ポール・ド・サン＝ポール地区の四つの集団を構成する人間の重複関係を示したものであるが、反乱以前に「シャリエ派」を支持していた第一次集会の出席者が、五月二十九日に少数の「シャリエ派」支持者と大多数の蜂起参加者に分裂し、さらに反乱中の地区集会にはそれまで第一次集会にも蜂起にもほとんど姿を現わなかった多数の富裕な市民が参加するようになったことを示している。それではこのような分裂が地区内にしろ全市的規模

第4図 (ポール・ド・サン＝ポール地区の住民の動向)



にしろ、民衆内部に何故に生じたのであろうか。そのような分裂を生じさせた主体的契機は何であったのか。その理由を説明するためには社会的相違以外の別の説明原理を必要とする。しかしそのためには、社会史研究で行われているようなカルティエ内の具体的な人間関係や民衆の生活構造を日常的次元から解明していく努力を必要とするのではなからうか。遺憾ながら筆者は現在のところ、史料の制約のなかで、それは、どのような方法と史料により可能であるか示すことはできない。

そこで筆者は、ここでは、革命初期から九三年五月二十九日まで一貫して民衆の利害を最も代弁してきたかにみえる「シャリエ派」が、何故、民衆の一部を巻き込んだ民衆運動としての性格をもつ地区の反乱によって打倒されたのかを、反乱前夜のリヨン市民の精神状況、リヨンの民衆の主要部分を占めた絹織物工業のファブリカン・労働者の社会的性格、さらに反乱前夜の「シャリエ派」のといった政策などとの関連において一般的に論じておくことにしたい。

第一に、五月二十九日の反乱は、二十世紀初頭のリヨンの歴史家リファテルによると、社会心理的にみて、一種の社会的恐怖運動（un mouvement de peur sociale）であったとみられている<sup>(11)</sup>。確かにそれによって一部の民衆が「シャリエ派」に対する反乱に参加した理由がある程度説

明されるように思われる。とくに反乱前夜、「シャリエ派」は反対派を恐怖に陥れるために、残忍な処刑を行うと宣伝し、また「シャリエ派」が土地均分法を唱えているという噂も市中に流された。そのような状況のなかで、彼らは革命軍を結成し、富裕者たちに強制課税し、リヨンの革命裁判所の設置を国民公会に請願した。これには富裕な市民のみならず、地区クラブに加入していない一般市民も恐怖を感じたのではないだろうか。強制課税をうけた地区住民のリストによると、愛国的な富裕市民でさえ課税をうけている。またその後数か月にわたり反乱中のリヨンの市民が、パリのジャコバンの政府軍に対して何故にあれほど執拗な抵抗を試み続けたのかということも、一つにはこのジャコバンに対する恐怖（当時のリヨン市民はパリのジャコバンと「シャリエ派」を同一視していた）からであった。またリヨンの絹織物工業のファブリカンは、大部分が商人製造業者のもとで手間賃で仕事をする貧困な労働者であり、それ故にこそ社会問題に関して商人製造業者も含めた富裕層と対立し、「シャリエ派」を支持したのであるが、彼らは同時に小作業場と生産用具（平均織機三台）を所有し、職人、ときには徒弟をも雇用する小経営者でもあった。「シャリエ派」が市民の生命財産を脅しているという恐怖がひらめかれたとき、ファブリカンの立場はきわめて微妙なも

のであったろう。また、その具体的内容についてはまだ明らかにされていないが、彼らは商人製造業者と対立する性格をもっていた反面、当然その雇用関係をつうじて商人製造業者と密接な人間関係を持っていたとも考えられる。それらの日常の人間関係も彼らの行動を決定する際に機能したのではないだろうか。しかし既に記したように現在はこの問題にこれ以上立入ることはできない。

第二に、一応市政を掌握した「シャリエ派」は、何故に三月から五月にかけて地区の抵抗運動に直面し、敗北したのかという問題を考えるとき、どうしても忘れることができないのは、中央クラブの解散とジャコバン・クラブ及び公安委員会の設立に関する問題である。筆者は、この革命指導体制の改造のイニシアティブをとったのはおそらくリヨン滞在中の国民公会地方派遣議員であろうと考えているが、この革命指導体制のジャコバン方式への改造は、「シャリエ派」に対する地区クラブの不信を招き、二月六日の中央クラブの蜂起以来反「シャリエ派」の運動を展開していた一部の富裕地区のクラブに他の地区クラブを同調させ「シャリエ派」から運動の基盤を奪う結果となった。そして「シャリエ派」自体も、派遣議員に不信を抱いていたことは前章で説明した通りである。さらに「シャリエ派」の市自治体が、地区の第一次集会の常時開設を禁止し、クラ

ブの会員（それは九一年の発足当時で約三千名にすぎない）以外の一般住民が自由に意思を表明し、地区の自治を行う重要な場を奪ったことも、「シャリエ派」の孤立を深めた。ソプールも指摘しているように、「常時開設（*permanence*）」は「サン・キュロットがそれを放棄するにはあまりにもサン・キュロットの自律性と直接統治（*gouvernement direct*）」の理想に一致していた<sup>(12)</sup>のであり、地区集会の常時開設を禁止したことは、彼らに専制主義の汚名を着せるに十分な口実を与えた。それ故に五月二十九日の蜂起は専制主義とアナキーに対する地区住民の抵抗というかたちをとることになるのである。

註

- (1) Riffaterre, op. cit., t. I, p. 174.
- (2) 動産税とその課税台帳に記載されている額の意味については、拙稿「革命期のリヨン住民の社会構成」、『史苑』第三十六巻第二号）、八四頁を参照されたい。
- (3) 前掲の拙稿、八四頁。
- (4) *Ibid.*, pp. 86—89.
- (5) 拙稿「革命初期のリヨンの民衆クラブと『シャリエ派』」、五〇頁。
- (6) 拙稿「リヨンのサン・キュロット運動の展開」(上)、『史苑』第四十五巻二号、通巻一三五号）、三一頁参照。
- (7) Riffaterre, op. cit., t. I, p. 174.

- (8) 拙稿「革命期のリヨン住民の社会構成」、九六頁。
- (9) サンIIヴァンサン地区クラブの一七九一年の会員の社会構成については、拙稿「革命初期のリヨンの民衆クラブと『シャリエ派』」、五一頁参照。九二—九三年の会員については本稿第一表参照。
- (10) ポール・ド・サンIIポール地区の一般住民の社会構成に関しては、拙稿「革命期のリヨン住民の社会構成」、九六—九七頁参照。
- (11) Riffaterre, op. cit., t. I, pp. 355—356.
- (12) Schoul, *Les sans-culottes parisiens en l'an II*, p. 31.

## 結 び

最後に結論として、フランス革命全体における「シャリエ派」の位置、とくに革命中の様々な政治グループと「シャリエ派」との関係について少々触れてみたい。これまで「シャリエ派」は、リヨンの革命期の文書や歴史家の著作のなかでは、大抵の場合、ジャコバンもしくはロベスピエリスト、あるいはエベール派とみなされることが多かった。前章でも記したように反乱中のリヨンの市民は、「シャリエ派」とバリのジャコバンを同一視して、政府軍に執拗な抵抗を続け、またロベスピエールの文書を押収したクルトワ(Courtois)委員会も、「シャリエはリヨンにおけるパリ

・コミューンの代理人であり、「中略」その資格で、ロベスピエールは彼の革命裁判所にシャリエを据えた<sup>(1)</sup>」と国民公会に報告している。そしてそのような見解は、その後の歴史家にも受け継がれ、一般化された。たとえば、ポルトは「ロベスピエールの推薦により、シャリエはリヨンの最も熱狂的な革命家たちに引き合された。彼らのおかげで、シャリエは、ジャコバン・クラブの議長と、それと共にデイトリクト裁判所の長官の地位を獲得した。」と書き、あたかもシャリエとその他のリヨンの民衆運動の指導者の行動にロベスピエールが直接影響を与えていたかのように書いている。更にエリオも、自作のリヨンの革命史『リヨンはやなし』の第一巻に『ジャコバンと穏和派』という副題をつけ、「シャリエ派」の市長ベルトランを「ジャコバン市長」と称したのであった<sup>(3)</sup>。

他方、リヨンで革命を経験し、その後リヨンの革命史を執筆したギュイヨン・ド・モンレオンと、二十世紀初頭のリヨンの歴史家リファテールは、「シャリエ派」をコルドリエとかエベルティストとみなした<sup>(4)</sup>。リファテールは書いている。「リヨンでは、ジャコバンと称していた愛国者たちは、その熱烈さと富裕に対する際立った敵意によって、むしろコルドリエに近かった<sup>(5)</sup>」。しかしソブールやコップのサンIIキエロット研究によってサンIIキエロットとエベール

ル派の関係がある程度明らかにされる以前には、フランスでも多くの革命史家たちは、地方の民衆運動の指導者や急進的活動分子をすべてエベール派とみなす傾向があった。バリのコルドリエ・クラブは、リヨンの反乱中、「シャリエ派」の釈放を要求したことは事実であるが、しかし我々は、革命期のリヨンの文書のなかに「シャリエ派」がエベール派もしくはコルドリエ・クラブと何らかの関係を持っていたことを示す証拠を発見することはできない。しかも、リヨンの中央クラブはロベスピエールの『憲法の擁護者』を定期購読していたが、中央クラブも「シャリエ派」も『ペール・デュシェーヌ』を購読していたという痕跡は全く残されていないのである。それどころか、リヨンのクラブの代表としてパリに赴いたルクレールは、パリ・コミューンの議場でジロンド派の逮捕が不充分であるという演説を行ったとき、エベールに逆に非難された。このときエベールは、「血を流すことを提案するすべての人間を悪質な市民とみなすこと」を要求している<sup>(6)</sup>。

それでは「シャリエ派」はジャコバンか。既に拙稿「革命初期のリヨンの民衆クラブと『シャリエ派』」でも記したように、シャリエは革命初期からパリに赴くとロベスピエールやマラに接触し、ジャコバン・クラブにも出席した。他方、ロベスピエールやモンタニャールに近い国民公会地

方派遣議員も、リヨンの政治グループのなかでは、「シャリエ派」を最も信頼し、地方派遣議員は中央クラブでも演説している。そして、リヨンの革命軍の結成と富裕者に対する強制公債の賦課を宣言した九三年五月十日のコミューン総評議会における声明も、派遣議員の前で決議されたものであったし、五月二十九日の反乱後はロベスピエールは「シャリエ派」を「ブルジョワ・アリストクラシー」による反革命の犠牲者であるとみなし、「シャリエ派」の裁判の延期と、彼らを国民公会の保護下におくことを国民公会に要求したのであった<sup>(7)</sup>。これに対して、シャリエの方も、遺書の中で、ロベスピエールに対する信頼を表明し、彼に自由の神殿を遺贈すると書き残している<sup>(8)</sup>。そしてシャリエの死後、一七九三年十二月二十日、山岳派国民公会はシャリエの胸像を公会に飾り、遺骨をパンテオンに安置した。

それ故に、リヨンの急進的なサンIIキエロット運動の指導者であるとともに、議会の政治グループのなかではモンタニャールを支持していた「シャリエ派」はリヨンのサンIIキエロット運動とバリのジャコバン・クラブやモンタニユ派の間を媒介して、(パリのジャコバンからみると)いわばジャコバンの国民戦線を地方にまで拡大する役割を果たしていたと考えられる。しかしだからといって「シャリエ派」をジャコバンと完全に利害の一致した同一の集団と

か、ジャコバンのリヨンにおける代弁者とは考えることはできない。一七九三年四月、ロベスピエールは、シャリエは優秀な人間であるが革命を陵駕し興奮過剰である、と述べていたと伝えられている<sup>(9)</sup>。リヨン出身のジャコバン派の国民公会議員キュセ（Cusset）も、ルクレールを「才能は持っているが、おそらく諸君には過剰である」と評した<sup>(10)</sup>。そしてリヨンに派遣されたジャコバン派のデュボワ＝クランセ（Dubois-Crance）は革命軍の結成を認めたが、リヨンに革命裁判所を設置することを承認しなかったし、コロ＝デルボワ（Collet-d'Herbois）も九三年五月十四日のリヨンの「声明」を非難し、その無効を要求したジロンド派のシャセ（Chassat）リヨンを県庁所在地とするローヌ・エ・ロワール県選出国民公会議員<sup>(11)</sup>の提案を支持したこともあった<sup>(12)</sup>。

他方これに対して、「シャリエ派」もリヨンに滞在中の国民公会派遣議員を穏和的であると批判する書簡を残していることは既に記した通りであるが、それに加えるに、反乱鎮圧後のリヨンの市政は、かつての「シャリエ派」の手に戻されず、フーシェやコロ＝デルボワなどのモンタニヤールの地方派遣議員の指導下にパリやその他の地方のサン＝キュロットによって Commission temporaire de Commune-Affranchie が組織され、その手によりリヨンでジャコ

バンの恐怖政治が遂行されるのである<sup>(13)</sup>。「シャリエ派」のガイヤールは、この Commission temporaire を構成した唯一のリヨンの活動分子であったが、彼は九三年十二月十七日に次のような言葉を残して自殺を遂げた。「すべては失われた。人々は共和国の滅亡を望んでいる。人々是我々に一人の国王を与えることを望んでいる。そして我々は一年以内にその王をもつてあらう<sup>(14)</sup>」。

むしろ「シャリエ派」の思想と行動は、アンラジェと類似する面をもっているのではないか。アンラジェのような民衆に密着したサン＝キュロット運動のリーダーの研究は、現在とくにジャック＝ルイーやヴァルレなどのパリのアンラジェを中心に進行中であり、海外では既にローズやマルコフなどによる研究が現われている。また我国でも杉原泰夫氏が人民主権論の面からヴァルレをとりあげ、アンラジェの政治理念を明らかにしているし、遅塚忠躬氏も、思想的にはアンラジェと同一系譜に属すると考えられるドリヴィエの社会思想をロベスピエールのそれとの対比において分析し、ドリヴィエの思想の独自性を明らかにしている<sup>(15)</sup>。筆者には、それらの研究の一つの意義は、アンラジェの社会政治思想と行動様式がジャコバンもしくはロベスピエール派のそれと比較した場合にいかなる独自性を持っていたのか、革命における両者の役割の相違をどこに求め

るのかという問題を明らかにしようとしている所にあると思われるが、このアンラジェの思想と行動は、「シャリエ派」との比較において、とくに次のような点が注目される。第一に山岳派国民公会の採用した消費財の価格公定や革命軍の結成、強制公債の賦課などの政策は、本来アンラジェも含めた大衆結社や地区のサン＝キュロット活動分子からだされたものであり、アンラジェは運動を組織してそれらの政策の実施を議会やモンタニヤールに強く迫った。第二に、アンラジェは、社会理念としては、私的所有権に対する生存権の優位、所有権の制限、ときには財産や土地の分割まで主張した。たとえばヴァルレは、『社会状態における人間の諸権利の厳粛な宣言』<sup>(16)</sup>（Varlet, Déclaration solennelle des droits de l'homme dans l'état social, 1793）において、「土地占有権は、社会において限界をもっている。その範囲は、商業または農業がいかなる障害もうけない程度のもでなければならぬ。『中略』彼ら（赤貧者―筆者）の最も自然な意思、彼らの最も不変の権利は、財産の巨大な不均衡を獲得しようとする野心を制限し、かつ正当な手段でそのような不均衡を阻止することにより、富裕者の庄政から身を守ることである。」（第一七条）とし、「すべての人間が求め、強く要求する権利をもつ最も神聖な第一の所有は、第一の生存の手段を充分に彼らに保障する所

有である。」（第一八条）と書いている。また思想的にはアンラジェと同一の系列に属すると考えられるドリヴィエも、「生存権の優位に基づく経済的自由の制限」と「富の平等の是正」を主張し、さらに無地農民や土地を充分持たない農民のために「大借地農場の全面的な分割」を行うことを提唱した<sup>(16)</sup>。

これに対してリヨンの「シャリエ派」は、思想を体系化して表わした文書をほとんど残していないので、杉原氏や遅塚氏がヴァルレやドリヴィエについて試みたような厳密な思想的分析をすることは不可能であるが、彼らは、パリのアンラジェと同じく、革命の開始の時点から民衆運動をつくりだそうという明確な意図を持ち、革命を富裕者に対する貧困者の社会戦争と捉え、また個人的所有に対する生存権の優位を説いた。さらに中央クラブの一構成員は会社の経営規模を一定限度内に制限しようとしたとされているが、少くとも「シャリエ派」は食料に関して個人消費に必要な部分以外は社会の共有にすべきであると主張し、革命軍と革命裁判所の設立を要求し、富裕者に強制公債を賦課したのであった。このようなリヨンの「ジャコバン」は、むしろアンラジェであると、ルフェーヴルは、『フランス革命歴史年報』誌上におけるエリオの『リヨンはやなし』を書評するなかで書いている<sup>(17)</sup>。

- (1) Metzger et Vaesen, *Lyon en 1793 avant le Siège*, p. 151.
- (2) Bittard des Portes, *L'insurrection de Lyon en 1793*, Paris, 1906, p. 3.
- (3) Herriot, *Lyon n'est plus*, t. I, p. 265.
- (4) Guillon de Montléon, *Collection des Mémoires relatifs à la Révolution française*, t. I, Paris, 1824, p. 145.
- (5) Riffaterre, op. cit., t. I, p. 190.
- (6) Herriot, *Lyon n'est plus*, t. II, p. 13.
- (7) Riffaterre, op. cit., t. I, pp. 272 & 322, Guillon de Montléon, op. cit., t. I, pp. 276-277.
- (8) Metzger et Vaesen, *Lyon en 1793 avant le Siège*, p. 167.
- (9) Guigue, *Registre du Secrétariat général*, p. 460 (Lettre de Joseph Germain à Chaler).
- (10) Ibid., p. 396 (Lettre de Cusset à Gravier).
- (11) Riffaterre, op. cit., t. I, p. 30.
- (12) Ibid., p. 54, Herriot, op. cit., t. I, pp. 344-345, ヤンブ・サント・ジャン派のジャンボン・サン＝タンテン(Jeanbon Saint-André) 著「ロベスピエールが九三年三月のペリの食料暴動を批判したのと同様に、九二年九月のリヨンの価格公定要求運動を次のように批判する書簡を書いている。「我々には国内における平和が必要であり、とりわけリヨンで生じているような愛国主義の偽善者によって善良な市民は煽動されるがままになってはいけないう。リヨンは盲目的状態にある民衆が販売者によって破産的価格に食料品を敢えて
- 価格統制した。そして必然的に民衆は、このむづかしい軽減にやがて不運にまみれたこの不幸な都市から販売者や増徴した「マティエ」(Mathiez, *La Révolution française*, t. II, 1936, Paris, p. 86.)
- (13) Cf. R. Cobb, La Commission temporaire de Commune-Affranchie(Brunaire-germinal an II) : étude sur le personnel d'une institution révolutionnaire (du même : *Terreur et Subsistance*, 1793-1795, Paris, 1965, pp. 56-94).
- (14) La Chapelle, *Histoire judiciaire de Lyon*, t. I, p. 183.
- (15) R. Cobb, op. cit., p. 77.
- (16) リヨンの社会研究「リヨンを参照。Rose, *The Enrages : socialists of the French Revolution*, Melbourne, 1968, Jacques Roux avant la Révolution, *Annales historiques de la Révolution française*(以下, AHRF と略す), 1963, Les Jacquesrouxins, AHRF, 1961. Jacques Roux : *Scripta et acta*, 1969, Berlin. 杉原泰雄『人民主権の史的展開』一九七八年。遅塚忠躬「ドリヴァエとロベスピエール」(柴田・成瀬編『近代史と政治の思想』一九七七年所収)。
- (17) 遅塚 前掲論文「一二七」一五一頁。この有名なリヴァエの主張に対して「ロベスピエールの社会理念は「生存権の保障という以上に富の平等等を是正しようとする」「ブルジョワ的自由主義の『補足』にすぎなかった」と遅塚氏は両者の相違を指摘している(前掲論文「一四二」「一四三頁」)。またルフェーヴルも「ロベスピエール派の社会的民主主義は「社会的民主主義を自由主義的な資本主義的経済理論と妥協するのための一つの試みであった」と書いていっている。(G. Lefebvre,

La Révolution française et les paysans, 1933. Du même, *Etudes sur la Révolution française*, p. 359.)

(18) AHRF, 1938, p. 176.

〔追記〕 本稿を脱稿し、その前半部分が公刊されてのち、遅塚忠躬氏の『ロベスピエールとドリヴィエー—フランス革命の世界史的位置』(一九八六年、東京大学出版会)が公刊された。これは近年のわが国のフランス革命史研究の最高の傑作で、とくにロベスピエールとドリヴィエーの社会的思想の相違を明確かつ詳細に分析した部分は見事で、本稿の「結び」で私が言及したことと関係がある。本稿の「結び」の「シャリエ派」と他の政治グループとの比較論は、今回の遅塚氏の著書における分析にくらべれば、まことに稚拙なものであるが、大枠においては遅塚氏の主張からかけ離れたものではないように思う。したがって、「結び」の部分には改めて筆を加えることをしなかった。